京都市の学校評価システム

令和３年度実施状況

―学校・家庭・地域が「自らを振り返り」「互いに高め合う」－

令 和 ４ 年 ９ 月

京都市教育委員会

目　　次

1　京都市における学校評価の考え方　・・・・・・・・・　1

2　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価　・・・・・・・・・　4

3　学校評価の現状や課題と今後の方向性について　・・・・・・・・・　6

〔参考〕
京都市立室町小学校における実践事例　・・・・・・・・・　9

１　京都市における学校評価の考え方

本市では、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育を推進するため、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都方式」の学校評価を、全国に先駆けて実施し、「学校運営の組織的・継続的な改善」「教育活動の質的向上」等に努めてきた。

国においては、平成１９年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」が努力義務とされた。本市では、これらに加え、学校評価の実施状況について客観的に検証し、学校教育の質の向上につなげるため、法令上の義務付けのない第三者評価として、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置するなど、現在、「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」に基づき、次の４点を柱とし、各学校・園において、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。Ｐ１参考１－１からＰ３参考１－４参照。

（１）学校評価をみんなのものにする

各学校では、学校教育目標やその実現に向けての具体的実践に関わる評価内容を全教職員が共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、保護者・地域の方々が参画する学校運営協議会等による「学校関係者評価」の評価結果の公表を行うことにより、学校評価は、子どもたちの学校生活を「市民ぐるみ・地域ぐるみ」で「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

（２）当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、学校関係者評価においても、「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、社会の宝である子どもや、学校のために何ができるのかを、「自分ごと」として捉え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」を学校運営協議会等で協議、行動に繋げていただくことにしている。

（３）自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、評価を行う者が足りないところを指摘するだけではなく、同じ目標を実現するためにそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」、そして「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う確かな信頼関係の下で「みんなごと」としての学校評価を進めている。

（４）学校の魅力を発見し、発信する

学校教育活動への保護者や地域の方の理解を深め、協働を得ていくためには、学校の魅力や課題の発見につながる工夫に富んだ情報発信が必要である。

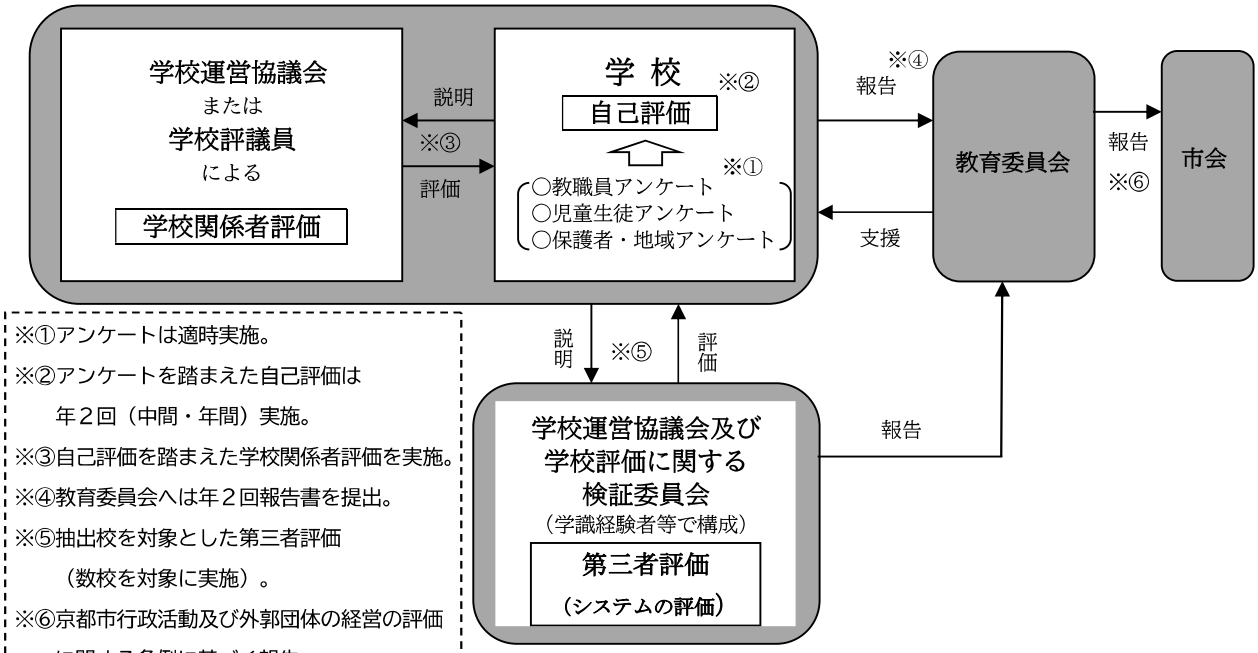
そのため、本市では、独自に開発した「学校評価支援システム」を導入し、アンケートの作成・集計・分析の効率化を図りつつ、アンケート結果や取組の成果、課題に対する改善策等をわかりやすくとりまとめ、全校のホームページへの掲載や学校だよりの配布等を通じて積極的に情報発信している。

参考１－１制度導入の経緯

平成１３年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成１５年　４月	全国に先駆けて全校・園で学校評価を開始、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成１６年　３月	全校・園での評価結果の公表
平成１９年　４月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第２版）
平成１９年　６月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行 学校教育法の改正（学校評価の根拠規定、学校の積極的な情報提供についての規定を新設）
平成１９年　７月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 （学校運営協議会に関する専門委員会　学校評価部会を組織改正）
平成２１年　６月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第３版）

参考１－２

≪自己評価と学校関係者評価，第三者評価のイメージ図≫

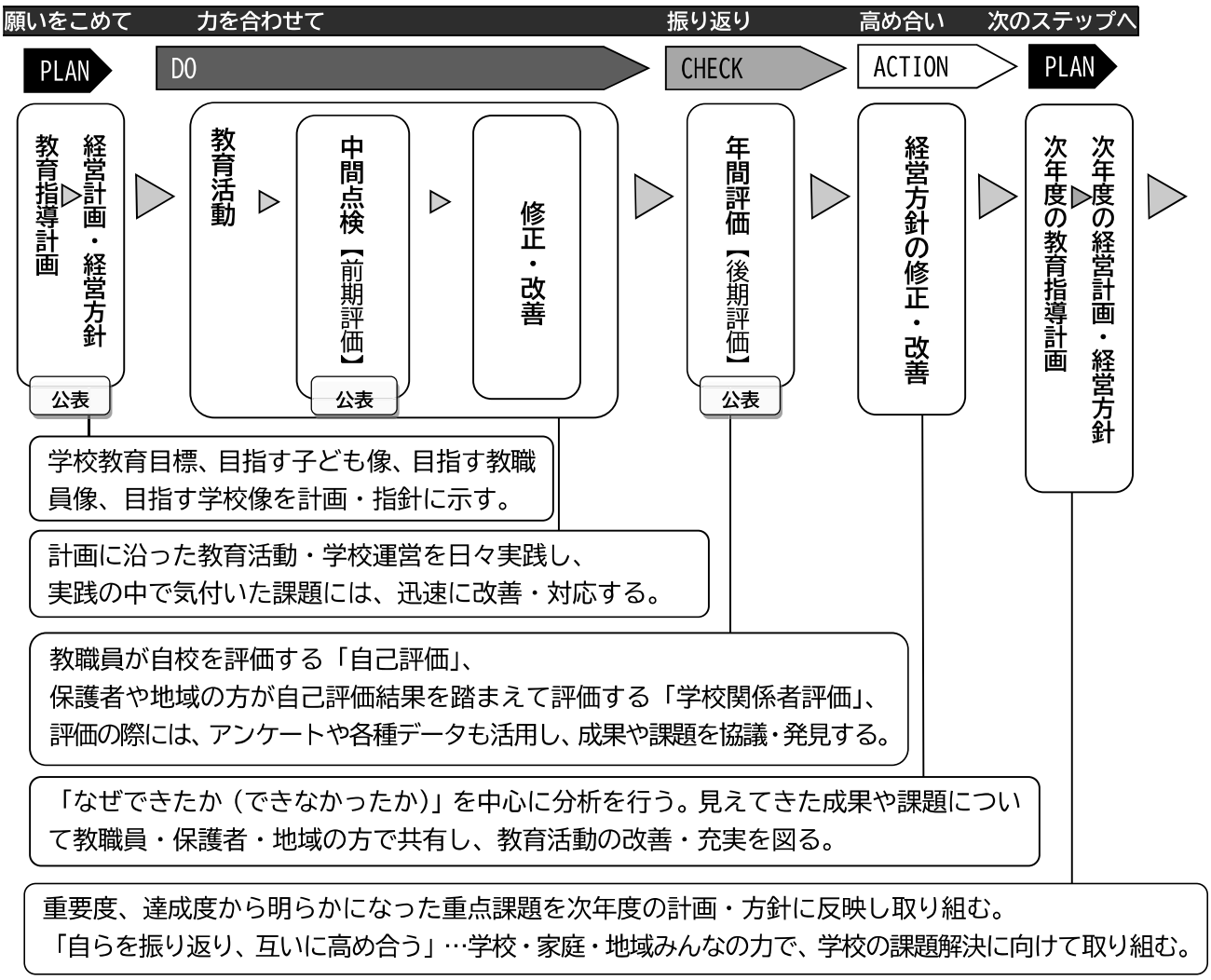


※①アンケートは適時実施。
※②アンケートを踏まえた自己評価は
　年２回（中間・年間）実施。
※③自己評価を踏まえた学校関係者評価を実施。
※④教育委員会へは年２回報告書を提出。
※⑤抽出校を対象とした第三者評価
　（数校を対象に実施）。
※⑥京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価
　に関する条例に基づく報告。

※「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」より

参考１－３

≪ＰＤＣＡサイクルに基づく学校評価の流れ≫

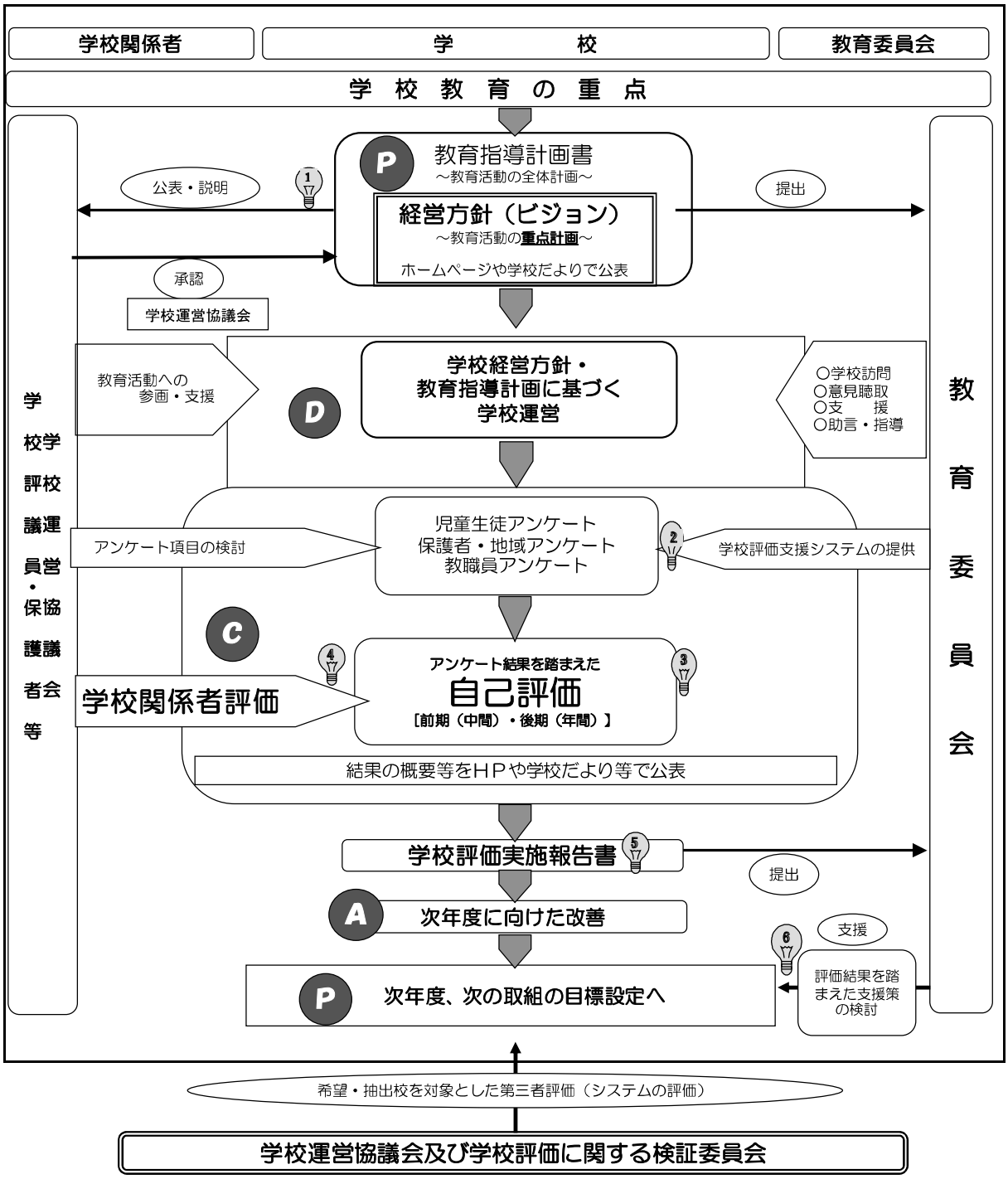


※「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」より

参考１－４

学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

1　学校経営方針、学校評価年間計画、評価項目の策定、公表
2　学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
3　学校組織としての自己評価を充実させ、評価結果及び改善策を提示
4　自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と、課題解決に向けた改善策や支援策の協議
5　評価結果の教育委員会への報告（年間２回）
6　教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

※「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」より

２　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価

（１）「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」の概要

本市では、学校評価の各学校での実施状況を含め、学校教育活動の充実に資する学校評価システムの客観性・信頼性を第三者的な視点から検証するために、学識経験者等で構成される「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下、「検証委員会」という。）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第１１条第２項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第１３８条の４第３項の規定に基づく附属機関である。

【令和３年度検証委員会委員】（敬称略・役職等は令和３年度のもの）

◎	小松　郁夫	京都大学　特任教授
○	天笠　茂	千葉大学　名誉教授
	今野　圭子	公募委員
	奥野　貴史	公募委員
	竺沙　知章	京都教育大学連合教職実践研究科　教授
	西川　信廣	京都産業大学　教授
	濱渦　栄美	ＰＴＡ代表（京都市小学校ＰＴＡ連絡協議会副会長）
	平林　幸子	京都中央信用金庫　相談役
	村田　真由子	公募委員

※ ◎は委員長、○は副委員長。委員長・副委員長を除き、五十音順に記載。

（２）令和３年度　検証委員会の実施状況

令和３年１０月６日（水）、１２月１４日（火）に会議を開催。また、各学校における学校評価の実施に関する第三者評価として、室町小学校、八条中学校の２校を訪問。

＜委員の主な発言＞

学校運営協議会・学校評価の意義とその共有

○学校評価は学校教育活動をより良くしていくための方策であるが、評価することが目的化してしまうなど、意義の浸透がまだまだ弱い部分がある。改善のポイントを焦点化しながら、評価項目を絞っていくことをもっと検討してもよいのでは。

○訪問校の学校評価の評価項目について、子どもの実態把握に関する個別具体的な観点が多く見られた。子どもが安心して安全に学び育つための重要な要素である学校施設の環境・設備面など、学校全体をより俯瞰的に捉えるための評価の在り方を検証することも必要。

○学校評価を活用する意義や目的を再度確認いただき、評価結果から映し出される学校の魅力と課題をより具体的に把握し、さらなる魅力の発信、課題の克服につなげてほしい。生徒が学校に誇りを感じ、自己肯定感を高めるとともに、保護者との更なる信頼関係の構築にもつながると思う。

○訪問校では学校評価の結果の公表について、教育活動に関する保護者の肯定的な意見だけでなく、否定的な意見もあわせて紹介しながら、学校としての見解を示すなど、保護者等へのフィードバックが丁寧に実施されている。

○学校・家庭・地域との連携・協働においては、自身の見解を一方的に主張するのではなく、各々の立場や状況を相互に理解し、尊重した上で対話を重ね、子どものために何ができるかを考えていくことが大切である。

○令和４年度には、小学校６年間、中学校３年間、高校３年間、大学４年間という「６－３－３－４制」と呼ばれる現在の学校制度が創設されてから７５年が経過することになる。時代が大きく変わり、連携・協働の重要性が改めて問われる中、地域の子どもが学ぶことのできる学校を町衆の力によって創設した歴史と伝統を有する京都から、学校運営協議会や学校評価を適切に機能させながら、学校・家庭・地域のさらなる連携・協働により子ども一人一人を育む、新たな時代にふさわしい持続可能な教育の姿を発信してほしい。

持続可能な学校運営協議会

○学校運営協議会の担い手の世代交代の在り方は、喫緊の課題。全国に先駆けて学校運営協議会を立ち上げ実践を重ねてきた京都市は、創業時のメンバーから次世代のメンバーへ引き継いでいくことで学校運営協議会を持続可能なものにしていく転換期を迎えている。

○地域との連携の充実に向け、大学生の参画を呼び込む仕組みを検討できないか。市内には多くの大学があり、大学側にとっても地域への参画を通じて学生の学びにつながる利点があるのでは。

○訪問校では、学校の広報物を地域の回覧板に掲載していただくよう働きかけるなど、地域との連携がとれていた。今後も、学校と地域の歩み寄りによって、より発展した関係性が築かれることが期待される。

○複数の小学校区から子どもが通う中学校が軸となり、多様な教育施設や福祉施設等と連携し、地域の中で子どもがしっかり育まれる取組を進めてほしい。そうして育った子どもが大人になり、新たな地域の担い手として活躍するような循環をつくれるかが鍵となる。

○今後の学校運営協議会の在り方を考える上で、担い手の世代交代を踏まえた持続可能性の視点がますます重要になる。持続可能な学校運営協議会の実現に向けて一つのポイントとなるのは、多様な世代が学校運営協議会に関わり、その担い手として活躍できるかである。こうした中で学校教育への地域の関わりが多様で主体的になり、同時に、校長についても蓄積された知見や自身の問題意識などを貴重な財産として着実に後任へ引き継いでいただくことで、地域と共にある学校がより充実したものになる。

学校教育の充実（ICT の活用等）

○コロナ禍では、学校だけでなく企業の在り方も大きく変化した。急速なデジタル化により、これまでよりも世界とつながりやすい環境となった。そして、既存の業務について、それが本当に必要なものなのかどうか問い直す契機となった。学校においても、この未曾有の事態を機に、慣習などを再考してほしい。

○ＩＣＴの活用が効果的なもの、そうでないものの見極めが大切である。端末を活用した教員の説明を生徒が見るだけ、動画や画像の編集のためのソフトを使うスキルだけではない。１人１台端末が貸与された上で実現すべき教育のあるべき姿に立ち返る必要がある。

○積極的な１人１台端末の活用を進めつつ、教職員間、学校間で得られた経験を共有するなど情報交換しながらスキルアップを図っていただきたい。また、先生方が教え込まずに、子ども自身の学ぶ力を信じることも大切である。

○訪問校では、全クラスにおいて１人１台の端末が活用されていた。導入初期ではまず機器を使用することに重きをおく必要があるとは思うが、次の段階では、授業内容等に応じた端末の有効的な活用をされるべき。ＩＣＴ機器を扱う能力だけではなく、機器を活用して何を実現するのかという視点から、これからの社会で求められる創造力等を、端末を活用し、より効果的に育むことを目指してほしい。

○教育の情報化に伴い、不登校の子どもを含め、学びの環境がより充実した。端末の操作スキルや情報モラル、端末を活用して育みたい力などは、校種を越えて系統的に検討すべき事項である。そして、ＩＣＴを有効に活用し、子どもの学びをより良くしていくために、今後、各学校での個別の取組と並行し、教育委員会においても学校の優れた取組をモデルケースとして発信し、京都市全体としてより一層の充実を図ってほしい。

３　学校評価の現状や課題と今後の方向性について

令和４年６月に本市が学校・園を対象に行った各校での令和３年度における学校評価の実施状況に関するアンケート調査を踏まえつつ、本市における学校評価の現状や課題と今後の方向性について、以下のとおり概説する。

なお、参考２－１～参考２－４は、同調査の各質問項目に該当する旨の回答を行った、小・中学校（義務教育学校を含む）の割合を示したものである。

（１）公表方法や内容について

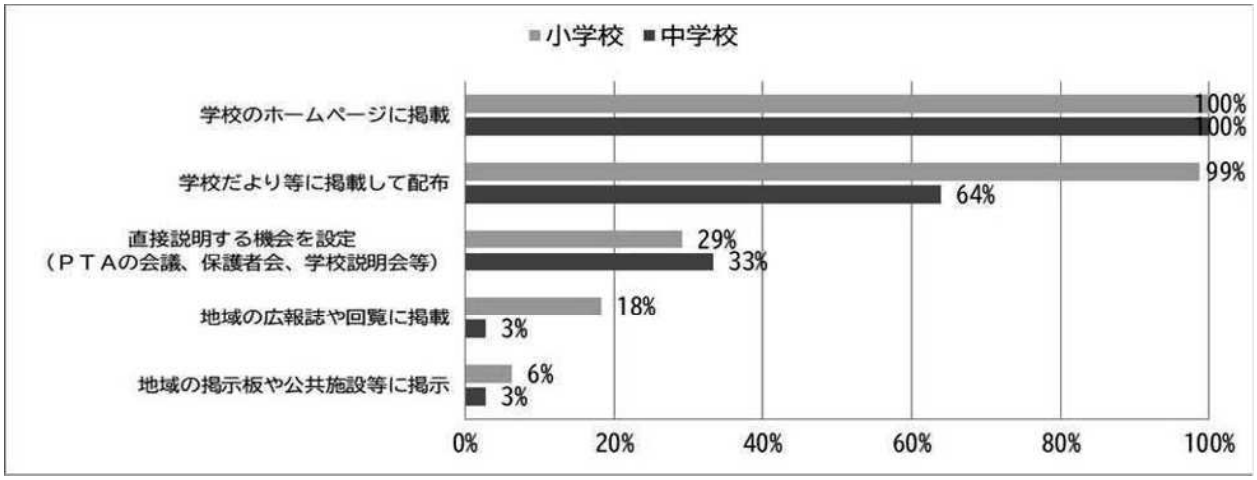
評価結果の公表については、全校でのホームページへの掲載や学校だより等でのお知らせなど、学校の実態を踏まえながら複数の方法を活用している。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学校運営協議会等の場における対面での説明など、保護者へ直接説明する機会が減少したことから、ＩＣＴ等を活用した更なる情報発信を進めていく。参考２－１参照。

また、公表内容についても、児童生徒・保護者・教職員の回答結果の比較や学校での取組と関連付けた考察などの分析、イラストやグラフ化など視覚に訴える方法など、わかりやすいものとなるよう工夫が施されている。参考２－２参照。

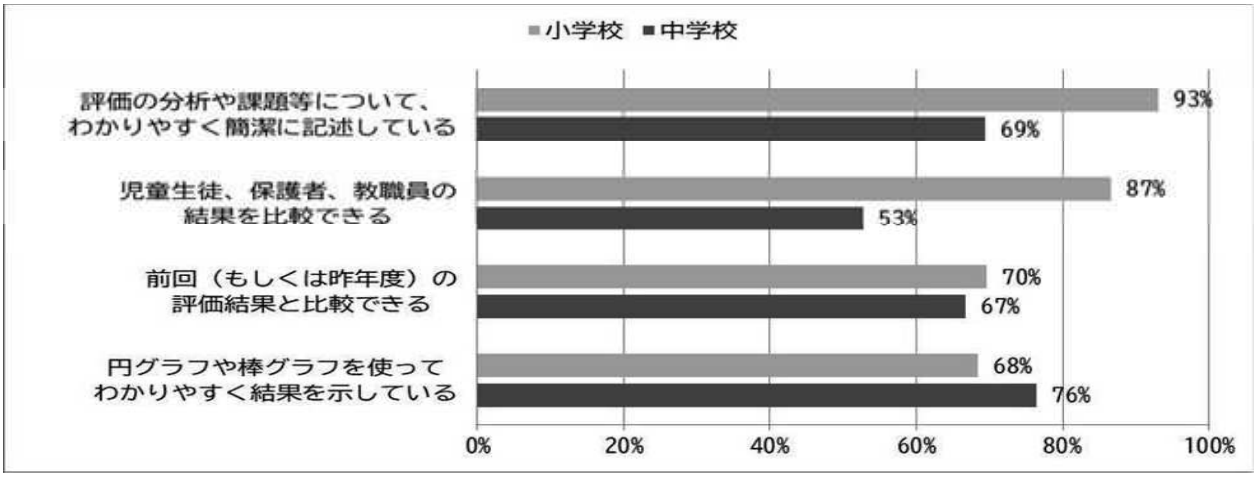
なお、こうした点について、過去数年の経年比較において、中学校はこれまで低調だったが、一部項目で数値の上昇がみられるなど、少しずつ改善傾向にある。

今後、義務教育９年間を見据えた学びや育ちの充実に向け、中学校ブロック内の小・中学校間での学校評価の活用や発信の工夫についても、校種を越えた効果的な取組の共有や、第三者評価等で協議を深めることによって、更なる改善を図っていく。

参考２－１公表方法についての工夫



参考２－２公表内容についての工夫



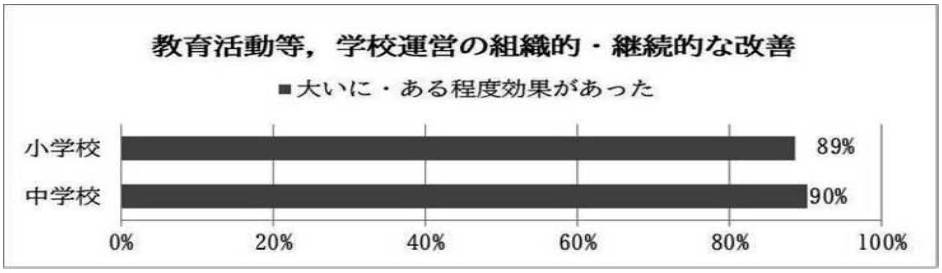
（２）学校評価の活用による効果について

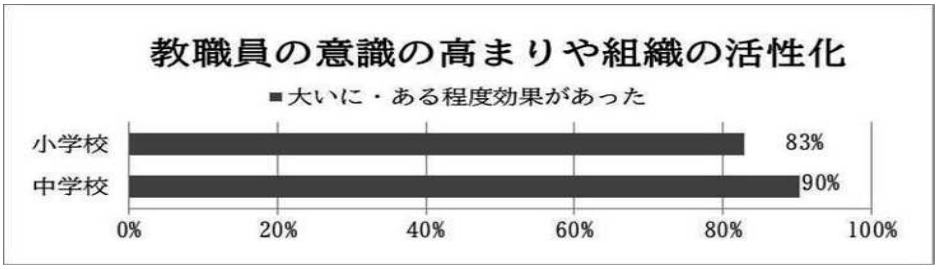
学校評価の活用により、学校運営の組織的・継続的な改善、教職員の意識の向上・深化や組織の活性化、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりが進み、ひいては、児童生徒の学力向上や生活態度の改善に繋がったとの回答が多くあった。参考２－３参照。

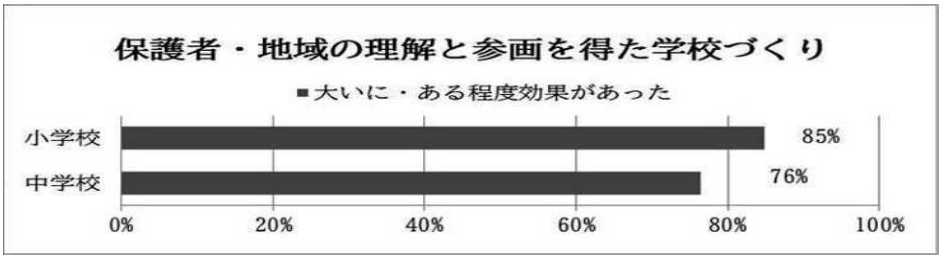
例えば、Ｐ９に本市の実践事例として掲載する室町小学校では、家庭・地域との連携・協働を通した「地域に誇りを持てる子ども」の育成を掲げており、学校の様子を地域の方に知ってもらうだけでなく、地域の人材を活かした学習の取組を進めるなど、学校評価を通じた実態把握と更なる取組の改善によって、双方向での関わりを持ちながら、地域ぐるみの教育が進められている。

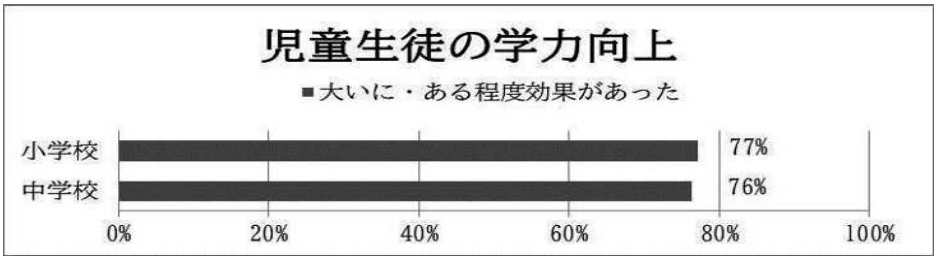
このように学校評価を通じて明らかとなった成果や課題を、教職員間にとどめることなく、学校運営協議会や学校評議員をはじめとした家庭・地域等と共有し、学校評価を基軸としたＰＤＣＡサイクルの中で、市民ぐるみ、地域ぐるみによる魅力ある学校づくりが進められている。

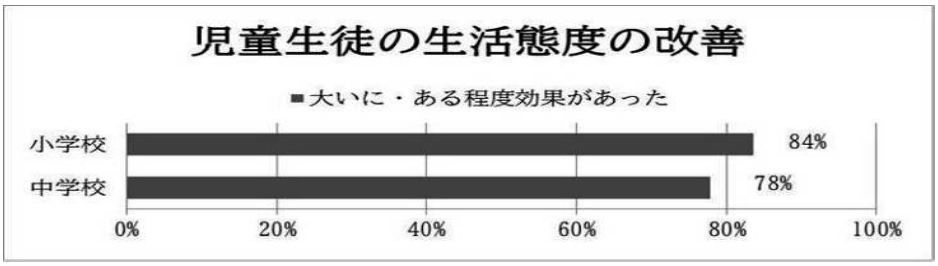
参考２－３学校評価の効果について











（３）学校評価を通じた教育活動の改善に向けた課題と今後の方向性について参考２－４参照

ア　評価実施に伴う業務負担の軽減

アンケート結果の集計や分析、結果報告書の作成といった学校評価の実施に伴う事務作業への負担感が課題として示されている。

本市ではアンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果を平易にグラフ化できる独自のシステム「学校評価支援システム」を平成２６年度に導入した。また、令和３年度からスキャン不要でアンケート作成・集約等を容易に行うことのできるソフトの積極的な活用を各学校に推奨しており、引き続き、学校・教職員の負担軽減に努めていく。（本ソフトについて、小・中学校（義務教育学校含む）の約８割が、実際に活用又は活用を検討している。）

イ　学校評価の意義や目的の発信・共有

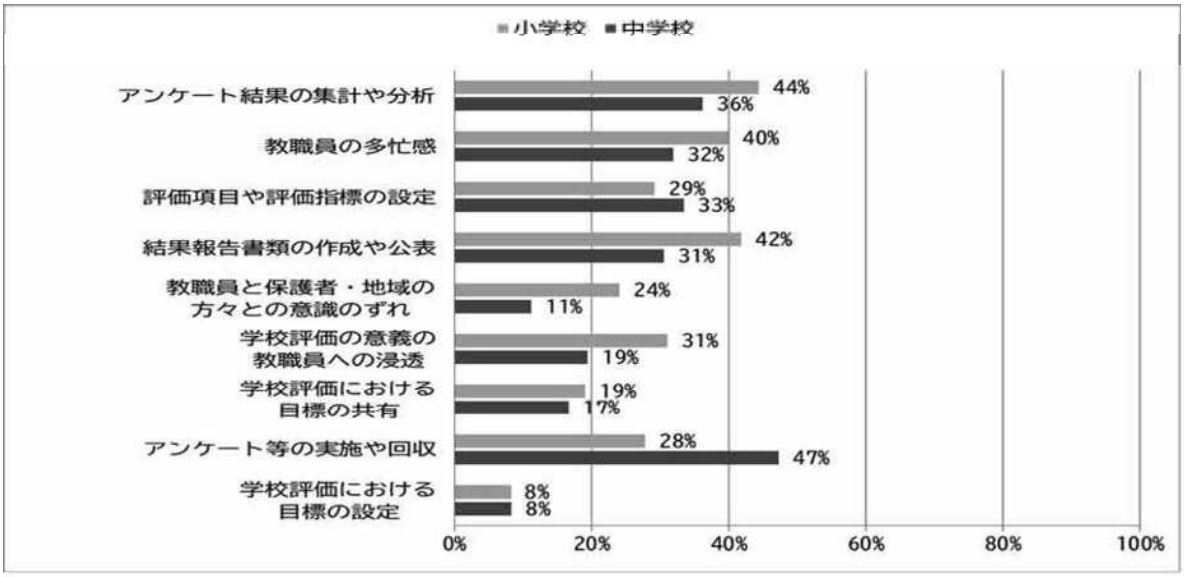
３（２）のとおり、学校評価を通じた校内外の連携・協働が進められている一方で、「学校評価の意義の教職員への浸透」や「教職員と保護者・地域の方々との意識のずれ」等が課題として示されている。市民ぐるみ・地域ぐるみで教育を進めるうえでは、学校評価の実効性を高めながら、教職員だけでなく、学校・保護者・地域が目指すべき目標や実態を共有し、よりよい信頼関係の下での連携・協働が求められる。

今後は、小中一貫教育や学校間連携等の中での効果的な取組の共有をはじめ、学校管理職や学校運営協議会の委員等を対象とした研修会等の機会を捉え、学校評価の意義や目的について、評価の当事者である学校・保護者・地域の理解を深め、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもを育むという重要な視点を共有し、関係者が対話をしながら協働できる関係を構築するなど、学校評価の質の向上に努めていく。

ウ　新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた教育活動の検証

令和３年度の検証委員会では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での学校運営協議会及び学校評価、学校教育活動の在り方という視点から、ＩＣＴの活用が進む学校を訪問し、ＩＣＴの活用により、児童生徒の学習保障や地域とオンラインで繋いだ学習活動の実施などの取組が見られた。また、本市が実施したアンケート調査においては、学校運営協議会等の書面開催の実施により十分な意見交換ができない、参観等で学校を直接見てもらうことができないなどの課題がある中、オンライン形式での実施、お便りや学校ＨＰの発信を増やすなど、各校における工夫が見られた。令和４年度の同委員会では、こうした観点を踏まえ、各校の工夫した取組がより一層充実したものとなるよう検証を進めていく。

参考２－４学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



＜参　考＞

京都市立室町小学校における実践事例

○所在地　京都市上京区室町通上立売上ル室町頭町２６１
○児童数　２４９名（令和３年５月１日現在）
○創　設
　１８９３年（明治２６年）室町尋常小学校として開校
○中学校ブロック
　烏丸中学校、室町小学校、西陣中央小学校

※　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

令和３年度　室町小学校グランドデザイン

【京都市の目指す子ども像】
伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども
子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校全体の教育活動の中で高める

学校教育目標
夢に向かって　ともに学び　ともに育つ子の育成

めざす子ども像　【キャッチフレーズ】　夢　・　笑顔　・　命

○めあてをもって行動する子	○互いを思いやり，支え合える子	○命を大切にする子
夢（ドリーム）	**笑顔（スマイル）**	**命（ライフ）**

めざす学校像　○子どもの笑顔が輝く学校　～「期待の登校」「満足の下校」～

めざす教職員像
○一人一人を大切にし、子どもの命を守りきる教職員
○地域・保護者から信頼される教職員
○主体的に行動し、高まり合える教職員
○お互いの職務を理解・尊重し、1.1倍の気遣いができる教職員

機能するプロジェクトチーム

○めあてをもって行動する子
ドリームプロジェクト
（確かな学力の育成）
主体的、協働的に考える子を育てる

わかる楽しさ、学ぶ喜びの実感できる授業の構築
・カリキュラムマネジメントの充実と授業改善（子ども主体の授業）
・学力分析と室町スタイルの確立
・ICT 活用（情報教育）の推進
・学級経営の充実
・自学自習の習慣化を図る

習得した力を活用する力の育成
・総合的な学習の時間の充実
・生き方探求パスポートの活用

○互いを思いやり、支え合える子
スマイルプロジェクト
（豊かな心の育成）
自己肯定感・自己有用感を育てる

規範意識の向上
・進んであいさつできる子の育成
・子どもの手本となる言語環境

「心の教育」の充実
・人権教育の充実（豊かな感性を育てる授業・取組・道徳教育の推進

安心な居場所つくり
・生徒指導の三機能の活用
・総合育成支援教育の推進、充実

特別活動の充実
・児童会活動の充実
・ピアサポート

○命を大切にする子
ライフプロジェクト
（健やかな体の育成）
自己管理、自己決定ができる子を育てる

健康づくりの推進
・保健教育、食育の充実
・環境の整備
・基本的な生活習慣の確立

安心・安全な学校づくり
・安全教育の推進
・室町版マニュアルの作成

体力の向上の推進
・体育科学習の充実
・運動遊びや縦割り活動の充実

家庭・地域との連携・協働　【社会に開かれた教育課程の実現】

・歴史と伝統を受け継ぎ、地域に誇りをもてる子どもの育成
（　地域を学ぶ　　地域で学ぶ　　地域から学ぶ　）
・学校運営協議会の充実と推進（企画推進委員会の活用…生活科・総合的な学習の時間の充実・発展）
・学校評価を活かした学校運営（学校・家庭・地域が自らを振り返り、互いに高め合う学校評価システム）
・情報の積極的な発信（学校・学年・学級だより、参観授業・懇談、ＨＰ等）
・保幼小中連携（KKP）・関係機関との連携

令和３年度　学校評価について

室町小学校

１　学校評価のねらい

（１）全教職員が、学校教育目標やそれを実現するための取組を共通理解し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげる機会とする。

（２）本校児童の実態を客観的に把握し、育てたい資質・能力を意識した教育活動につなげる機会とする。

（３）教職員、保護者、地域、子どもたちが同じ目標を実現するため、各々が指導や子育て、子どもへの関わりを振り返る機会とする。

２　評価にあたって重視する視点

（１）～（３）は、京都市学校教育の年度ごとの指針とその重点取組を定める「学校教育の重点」において、生きる力を構成する要素として掲げられている（京都市立学校・幼稚園共通の視点）。

（１）「確かな学力」の育成に向けて

子どもたちに、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、自分の考えや思いを伝える力を養う。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高め、互いに思いやり、支え合える子どもを育成する。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

自分や他人の命を大切にし、自ら進んで健康な心と体をつくる自己管理力をもつ子どもを育成する。

（４）学校独自の取組

情報発信を積極的に行い学校の様子を地域に知ってもらうと共に、地域の人材を生かした学習、地域行事への積極的な参加を通して、地域に開かれた学校にしていく。

（５）教職員の働き方改革について

自己の技能（授業力や知識力）の向上や子どもとの関わりなど本当に必要なことに時間をかけることができるよう、時間の使い方を意識して働く。

３　評価項目の設定にあたっての留意点

（１）学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋げられるよう、評価項目を「ドリーム（知)」「スマイル（徳)」「ライフ（体)」のカテゴリーにより、項目を定めている。

（２）育てたい資質・能力を「表現力」「発信力」「対話力」としていることから、経年変化を把握するため、内容を変更しない項目を設定している。

（３）小中一貫教育の観点から、小中学校で共通した評価項目を設定している。

（人を大切にする・あいさつをする・進んで学ぶ・自分の考えを表現する・地域を愛するの５項目）

（４）地域ぐるみの教育を進めるため、学校運営協議会での協議も経て項目を設定している。

４　評価結果の概要　※２に掲げる重視する視点に沿って概要を記載

	自己評価	学校関係者評価
「確かな学力」の育成	・　家庭学習に対し前向きな傾向が見られた。学力向上研修において宿題の内容の在り方や、自主学習の取り組み方など共通理解が進み、教職員の意識も高まってきているためだと思われる。 ・　学力向上に向けた「ドリームプロジェクト」チームを組織し、宿題内容の検討について議論を深めてきた成果が見られる。	・　担任や授業を担当する教職員が、子どもたちに授業など学校生活の場で、小さな目標を設定する機会を作ることで、大きな目標、さらには将来の夢につながっていくと思う。 ・　総合的な学習の時間など地域の力を活かしながら、子どもたちの学力向上に協力をしていきたい。
「豊かな心」の育成	・　挨拶に関する項目は、児童・保護者・教職員の３者の評価が高い割合にある。道徳の時間を通して挨拶の大切さ・意味について話し合い、自ら進んで挨拶ができるように意識させたこと、自分で考えて行動する心情を育むために、児童会活動を活性化したことが成果と思われる。	・　学習に対する目標だけでなく人権意識を高める目標の設定も心がけていってほしい。 ・　来校したときに挨拶をしてくれる子どもたちが多いと感じる。
「健やかな体」の育成	・　体育科の学習の時間に十分な運動量が確保できるよう「ライフプロジェクト」チームの中で活動を考案し、取り組んでいったことで、コロナ禍でも体力テスト結果が多くの項目において全市平均を上回った。 ・　本校の強みの一つに家庭教育力が挙げられるが、コロナ禍の影響か、規則正しい生活ができていない児童が増えてきている。	・　コロナ禍の影響により自宅で過ごす時間も増えた。そのため、テレビやインターネットを使う時間も増えてきている。注意していきたいアンケート結果だと思う。 ・　マスクをつけての活動は大変だと思うが、感染予防を引き続きお願いしたい。
学校独自の取組	・　教職員によるホームページの情報発信を積極的に行えておらず、およそ５割の保護者が室町小学校のホームページをあまり閲覧していない課題がある。コロナ禍の影響により、保護者の学校来校が減っている中、教育活動の発信として有益なツールと捉え、ホームページを積極的に活用していく。	・　コロナ禍の影響で地域との連携が取れなかったことはやむを得ないことである。今後も地域は協力をしていくので、よろしくお願いしたい。 ・　学校だよりを通じて、行事などの日程連絡にとどまらず、保護者啓発につながる内容を積極的に発信していくことが大切だと思う。
教職員の働き方改革	・　１つ１つの学校行事や研修・会議の意義や必要性について精選しつつ、短時間で効率的に行ったことで、１９時に学校を閉門することが増えた。 ・　グローアップ想定シート（※１）を活用し、各教科のつながりを意識して授業を行うことで、年間通じて見通しを持って取り組むことができた。	・　教職員は、新型コロナウイルス感染症対策等で大変な中、よくやってくれている思う。教職員が元気にならないと、子どもたちも元気が出ないので、休める時にしっかり休んでほしい。 ・　負担軽減のため、できることがあれば協力させていただく。学校運営協議会、企画推進委員会で、話し合っていきたい。

※１「グローアップ想定シート」：学校教育目標、学年目標や学級目標の実現に向け、教科や行事などの諸活動と育みたい力（目指す姿）との関連を記載したシート。

５　総括・令和４年度に向けた課題等

（１）「自分のめあてをもってがんばろうとしている」という項目で、８９％の保護者から肯定的な回答を得られた。学校での取組をより家庭にもつなげていくために、子どもたち自身が学習を調整する力を育てる単元計画及び授業計画を推進していきたい。

（２）児童アンケート「学習中発表をしていますか」という項目では、およそ３０％の児童が否定的な回答であった。この結果を受け、来年度は「問い⇒話し合いのコーディネート⇒話し合いの価値づけ」という学習過程をさらに意識した授業づくりを進めていきたい。

（３）コロナ禍の影響か、規則正しい生活ができていない児童が増えてきている。引き続き「生活リズム調べ」（※２）を行い、子ども自身が自分の生活を見直すことができるようにするとともに、家庭にもお便り・ＨＰ等で啓発して学校と協働していけるようにしていきたい。

（４）コロナ禍の影響により、保護者の来校が減っている中、ホームページを教育活動の発信として有益なツールと捉え、積極的に活用していきたい。

※２「生活リズム調べ」：子どもが自身の生活リズムの改善に向けて、目標を立てて実行し、自己評価する取組。学校は児童の生活習慣の実態を把握し、指導へつなげる。

検証委員会による学校訪問（第三者評価）を踏まえた改善状況

１　既に改善に着手した点

【検証委員会の評価】

学校教育目標の方向性に概念的な部分が見られることから、わかりやすく丁寧な説明を重ね、教職員の具体的な行動につなげてほしい。学校評価を介してコミュニケーションが充実し、意図的に学校づくりに活用されることを期待する。

【改善に向けた取組状況】

①　グローアップ想定シート（学校教育目標の実現に向けた目標を学年ごとに設定し、教科や行事などの諸活動と育みたい力との関連を記載したシート）を活用・共有する機会をもち、学年ごとに児童の育みたい力について振り返り、現段階の立ち位置を把握できるようにした。そうすることでその目標を達成するために何をしなければいけないか、年間を見通して教育活動を進めることができた。

②　３学期に学校評価アンケートやジョイントプログラムの結果を、教職員で分析し自校の子どもたちの強みと弱み（成果と課題）を共有し、令和４年度の学校教育目標達成の具体的な取組（３つのプロジェクトチームで検討）に繋げた。

【検証委員会の評価】

アンケートについて、記名式では率直な意見を書きづらい側面がある。答えやすい設問の設定など、回収率の向上も踏まえたアンケートを検討いただきたい。学校における課題を含めた直近の状況とともに、同一集団における経年変化も把握できるよう、質問内容の見直しを図られるとよい。

【改善に向けた取組状況】

①　本校の記名式アンケートの回収率はほぼ１００％である。しかし、答えやすい設問の設定や経年変化の把握という観点において、答えにくい設問等もあったため、より具体的な実態を把握できるよう、設問の細分化など工夫を図った。

２　今後の着手を予定する点

【検証委員会の評価】

端末の操作スキルだけでなく、情報モラルも含めた両輪で児童を育む授業をしていくことが大切である。また、子どもの姿勢や視力への影響が気になる。

【改善に向けた取組状況】

①　情報モラル学習を定期的に実施するとともに、情報モラルの「健康と安全」の学習を担任が意識し、情報機器が体に及ぼす影響についても指導する。また、養護教諭が行う保健指導でも扱うことで、子どもたちが自ら良い行動を選択することができるように支援していく。

【検証委員会の評価】

教職員への学校運営協議会の意義の浸透には課題が見られる。学区内にある大学へ学習支援等のボランティアでの協力を求めるなど、さらなる地域との連携を期待したい。

【改善に向けた取組状況】

①　令和２年度に、本校の企画推進委員会を機能させたばかりであり、教職員にもその意義について説明はしたものの必要性についての考えは統一できていない状況だったが、企画推進委員会を実施することにより、地域の方との顔合せを行い、お互いの思いを共有していくことを通して、意義についても浸透していくと考える。働き方改革の観点による、教職員の負担軽減も考慮しつつ、今後も地域の方に協力を求めていきたい。

②　地域の方が、放課後学び教室のスタッフ、図書や園芸ボランティアとして学校にきてくださる機会が増えることで、話をする機会も増え、また、人材発掘にもつながっている。今後は、学生ボランティアを上手に活用している隣接する児童館にも話を伺いながら、近隣大学の学生ボランティアの活用も考えていきたい。

令和３年度　学校評価年間計画　　室町小学校

学校評価のねらい

・教職員一人一人が自分の職務に対して責任と自覚をもち，学校教育目標達成に向けて主体的に行動できるようにする。（自己評価）

・子どもの意識や実態を把握し，そこから子どもに必要な力を明らかにし，学習指導や学級経営に生かす。（児童による評価）

・保護者や地域の方々の願いや思いを汲み取り，「地域に開かれた学校」としてより良い学校になるよう取り組む。（保護者・地域による評価）

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
	4	・学校教育指導計画書の作成		・教育方針を学校だより・ホームページで公表
	5			・評価年間計画をＨＰで公表
	6	・学校評価項目の検討 ・第１回評価研修の実施	・第１回運営協議会・理事会 ・教科等評価方法の方向性確認	
	7	・児童アンケート 保護者アンケートを実施		・教科等評価の視点を配布プリント及びＨＰ，懇談会にて伝える
	8			
中間評価	9	・第２回評価研修の実施（児童アンケートの結果分析・保護者アンケートの結果分析） →教職員自己評価　授業改善の検討	・第２回運営協議会による評価の実施 （学校関係者評価）	・学校だより，ＨＰで結果・改善策を公表
中間評価	10			
	11			
	12	・児童アンケート 保護者アンケートを実施		
年間評価	1	・第３回評価研修の実施（児童アンケートの結果分析・保護者アンケートの結果分析） →教職員自己評価　授業改善の検討	・第３回運営協議会による評価の実施 （学校関係者評価） 次年度の方針説明	
年間評価	2			
年間評価	3	・第４回評価研修 （次年度の方針の共通理解）		・学校だより，ＨＰで結果・改善策を公表

学校評価アンケート号
室町だより

学校教育目標
夢に向かって　ともに学び　ともに育つ子の育成

○めあてをもって行動する子
夢（ドリーム）

○互いを思いやり，支え合える子
笑顔（スマイル）

○命を大切にする子
命（ライフ）

【キャッチフレーズ　夢　笑顔　命】

令和３年11月1日　NO.８ 特別号

京都市立室町小学校
校長 稲葉 章江
TEL (075)431−0358
Fax(075)431−0359

令和３年度　前期学校評価アンケート＜学習面＞☆

A:よくできる（そう思う）　C:あまりできない（あまりそう思わない）
B:大体そう思う（大体できる）D:できない（そう思わない）

学校評価アンケートの結果を，質問事項を絞りながらお伝えさせて頂きます。

子どもたち
学習中，発表がよくできていますか。

	R3（1学期）	R2（後期）	R3とR2の差
よくできる 大体できる	77.3%	74.9%	2.4%
あまりできない できない	22.7%	25.1%	−2.4%

今年度，本校の授業研究のテーマは「自分の思いを伝え合う子」です。教職員一同，問題を工夫したり，発表の仕方を工夫したりしながら，子どもたちの対話力育成に努めています。
昨年度（後期）に比べ，わずかではありますが，発表することに対し，前向きに捉えている子どもたちが増えてきています。引き続き，発表したい！と思える授業づくりに励んでいきたいと思います。

１学期

子どもたち	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
学習はよくわかりますか。	５９．８％	３４．３％	５．９％	０％	授業がわかりやすいと言っている。	２７．０％	５６．０％	１５．０％	２．０％	各教科の基礎基本の内容が定着するよう教材研究を行い，指導・支援の充実に務めている。	３７．５％	６２．５％	０％	０％
学習中，発表がよくできていますか。	３７．２％	４０．１％	１６．１％	６．６％	考えて表現できる子どもにそだってきている。	２７．０％	６１．０％	１１．２％	０．８％	考えて表現できる子どもにそだってきている。	５．９％	８２．４％	１１．７％	０％
先生や友達の話をよく聞いて学習していますか。	４８．５％	４４．４％	６．７％	０．４％	意欲的に学習し，基礎基本の学力を身に付けてきている。	２４．５％	５１．０％	２１．９％	２．５％	意欲的に学習し，基礎基本の学力を身に付けてきている。	５．９％	７６．５％	１７．６％	０％
宿題や自主学習（マイノート）に自分から取り組んでいますか。	４９．６％	３５．０％	１２．９％	２．５％	家庭学習や読書など，自ら進んで取り組んでいる。	４０．６％	４７．０％	１１．６％	０．８％	自主学習（マイノート）や読書指導の充実を図っている。	１２．４％	８１．３％	６．３％	０％
進んで読書をしていますか。	４６．３％	３３．３％	１５．０％	５．４％										

子どもたち
宿題や自主学習（マイノート）に自分から取り組んでいますか。

	R3（1学期）	R2（後期）	R3とR2の差
よくできる 大体できる	84.6%	79.4%	5.2%
あまりできない できない	15.4%	20.6%	−5.2%

宿題や自主学習に対し，前向きに取り組んでいると答えた子どもたちが84．6%となりました。さらに昨年度より5．2%の増加が見られました。とはいうものの，まだまだ家庭学習の質的向上のために，宿題の中身や取り組み方について，考えていきたいと思います。

学校運営協議会で頂いた意見を紹介します。
・「学校アンケート」の結果から，学校・教職員の方々が熱意をもって取り組んでいることが伝わってきました。引き続き，お願いします。
・「学校アンケート」の結果から，「自分のめあてをもってがんばろうとしている」は，勉学に関する視点が多くを占めていると思う。しかし，「人にやさしく」という人権的な側面も大切に取り組んで頂きたいと思います。
・「学校アンケート」結果から，めあてをもつ力はやはり担任の先生や，授業を担当する先生が小さな目標をもたせ，ふり返る機会をもたせることが大切だと思います。

令和３年度　前期学校評価アンケート＜生活面＞☆

子どもたち
学校や学級は楽しいですか。

	R3（1学期）	R2（後期）	R3とR2の差
そう思う 大体そう思う	97.5%	94.3%	3.2%
あまりそう思わない そう思わない	2.5%	5.7%	−3.2%

学校や学級に対し，前向きに捉えている児童が多いことは，室町小学校の教職員にとって，励みになる結果だと言えます。

しかし，一方で，2.5%の子どもたちが学校に対し前向きではない事実があります。「あまりそう思わない」「そう思わない」を選んだ子どもたちを，少しでも前向きに学校生活を送ることができるよう，支援していきたいと思います。

１学期

子どもたち	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
学校や学級は楽しいですか。	７１．４％	２６．１％	２．１％	０．４％	楽しく学校生活を送っている。	５６．３％	３７．０％	５．４％	１．３％	学校教育目標のめざす子ども像を意識して学級経営に臨んでいる。	２６．７％	６６．７％	６．７％	０％
友達と仲良くしていますか。	７３．３％	２４．２％	２．１％	０．４％	友達や命あるものに，思いやりの気持ちをもって接している。	２７．０％	６１．０％	１１．２％	０．８％	友だちや命あるものに思いやりの気持ちをもって接している。	１７．６％	７０．６％	１１．８％	０％
進んであいさつをしていますか。	５３．４％	３５．７％	８．０％	２．９％	進んであいさつをしている。	２４．０％	５６．０％	１８．６％	１．２％	進んであいさつしている。	１７．６％	４７．１％	３５．３％	０％
早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しく生活していますか。	３８．１％	４５．６％	１２．１％	４．２％	早寝・早起き・朝ごはんなど基本的な生活習慣を身につけている。	３２．４％	５４．０％	１０．０％	０．８％					
自分たちの住む室町地域は好きですか。	７２．８％	２１．３％	４．２％	１．７％						地域と連携し，地域の人材を活用した授業を行ったり，地域の行事に参加したりしている。	１１．８％	２９．４％	４１．２％	１７．６％

子どもたち
自分たちの住む室町地域は好きですか。

	R3（1学期）	R2（後期）	R3とR2の差
よくできる 大体できる	94.1%	94.4%	−0.3%
あまりできない できない	5.9%	5.6%	0.3%

昨年度同様，コロナ禍の影響により教育活動は様々な制限を強いられることとなりました。

「自分たちの住む室町地域は好きですか。」という質問いに対し，微減ではありますが，昨年度より落ち込んでいます。

緊急事態宣言解除後，地域の人材を生かした教育活動もいくつか行うことができました。総合的な学習の時間を中心に，学習を通して室町地域に対する理解を深めていきたいと思います。

保護者
学校は積極的に学校情報を発信している。

	R3（1学期）	R2（後期）	R3とR2の差
よくできる 大体できる	87.2%	97.8%	−10.6%
あまりできない できない	12.8%	2.2%	10.6%

教職員
学校だよりやホームページなどで積極的に情報を発信している。

	R3（1学期）	R2（後期）	R3とR2の差
そう思う 大体そう思う	70.6%	75.0%	−4.4%
あまりそう思わない そう思わない	29.4%	25.0%	4.4%

保護者アンケートの結果から，昨年度に比べ情報発信に対し，ネガティブな結果が見られました。また，それは教職員も同様にネガティブな結果となりました。

つまり，情報共有の視点で課題が見られることがわかります。学校だよりや学級だよりでは，必要とされる情報をしっかりと送ること，ホームページでは件数を増やしながら，学校生活の様子をお伝えしていきたいと思います。

＊「室町だより」は，本校ホームページにも掲載しております。ぜひ，ご覧ください。

子どもたちの今と未来のため，社会のあらゆる場で「子どもを共に育む京都市民憲章」を実践しましょう！
京都はぐくみ憲章

学校評価アンケート号
室町だより

学校教育目標
夢に向かって　ともに学び　ともに育つ子の育成

○めあてをもって行動する子
夢（ドリーム）

○互いを思いやり，支え合える子
笑顔（スマイル）

○命を大切にする子
命（ライフ）

【キャッチフレーズ　夢　笑顔　命】

令和4年3月14日　NO.14 特別号

京都市立室町小学校
校長　稲葉　章江
TEL (075)431−0358
Fax(075)431−0359

令和３年度　後期学校評価アンケート＜学習面＞☆

A：よくできる（そう思う）　C：あまりできない（あまりそう思わない）
B：大体そう思う（大体できる）D：できない（そう思わない）

学校評価アンケートの結果を，質問事項を絞りながらお伝えさせて頂きます。

２学期

子どもたち	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
学習はよくわかりますか。	６１％	３０％	８％	１％	授業がわかりやすいと言っている。	３３％	５５％	８％	４％	各教科の基礎基本の内容が定着するよう教材研究を行い，指導・支援の充実に務めている。	２８％	６１％	１１％	０％
学習中，発表がよくできていますか。	３４％	３７％	２３％	６％	学習中発表がよくできていますか。	３４％	３７％	２３％	６％	考えて表現できる子どもにそだってきている。	２１％	６８％	１１％	０％
先生や友達の話をよく聞いて学習していますか。	４６％	４８％	５％	１％	基礎基本の学力を身に付けてきている。	３３％	５６％	１０％	１％	意欲的に学習し，基礎基本の学力を身に付けてきている。	１１％	７４％	１５％	０％
宿題や自主学習（マイノート）に自分から取り組んでいますか。	４６％	４０％	１１％	３％	宿題に進んで取り組んでいる。	４４％	４０％	１１％	５％	自主学習（マイノート）の充実を図っている。	１９％	６９％	１２％	０％
進んで読書をしていますか。	４７％	２９％	１８％	６％										

子どもたち

学習中，発表がよくできていますか。

	R3（1学期）	R3（2学期）
よくできる 大体できる	77.3%	71.0%
あまりできない できない	22.7%	29.0%

今年度，本校の授業研究のテーマは「自分の思いを伝え合う子」です。教職員一同，問題を工夫したり，発表の仕方を工夫したりしながら，子どもたちの対話力育成に努めています。

しかしながら，１学期に比べて「あまりできない・できない」が増加しています。

今回の結果を受け，自分の考えや思いを進んで発表できるよう，今以上に学習活動を工夫していきたいと思います。

保護者

読書に進んで取り組んでいますか。

	R3（1学期）	R3（2学期）
よくできる 大体できる	87.4%	62.0%
あまりできない できない	12.6%	38.0%

「読書に進んで取り組んでいますか。」という質問に対し，「あまりできていない・できていない」という回答が約40%でした。

今年度，室町小学校では，読書活動の充実を図ってきました。学校での読書活動を家庭にも活かしていける取組を考えていきたいと思います。

令和３年度　後期学校評価アンケート＜生活面＞☆

子どもたち

自分のすきなところはありますか。

	R3（1学期）	R3（2学期）
そう思う		
大体そう思う	79.3%	74.0%
あまりそう思わない		
そう思わない	20.7%	26.0%

子どもたちの「学校や学級は楽しいですか。」という質問に対し，92%の児童が肯定的な回答となっています。(A+B)

一方で，児童の自己肯定感へとつながる「自分の好きなところはありますか」という質問に対し，およそ30%の子どもたちが否定的な回答となっています。

４月に実施された全国学力・学習状況調査におけるアンケート調査では６年生の「将来の夢をもっているか」という項目の数値が，全国・京都府の６年生児童よりも低評価であったことも踏まえ，児童の自己肯定感や未来志向を促す取組を進めていきたいと思います。

２学期

子どもたち	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
学校や学級は楽しいですか。	６０％	３２％	７％	１％	楽しく学校生活を送っている。	６７％	２９％	３％	１％	学校教育目標のめざす子ども像を意識して学級経営に臨んでいる。	２２％	７８％	０％	０％
友達と仲良くしていますか。	６５％	３２％	１％	２％	友達や命あるものに，思いやりの気持ちをもって接している。	４９％	４８％	３％	０％	友だちや命あるものに思いやりの気持ちをもって接している。	２１％	６８％	１１％	０％
進んであいさつをしていますか。	４９％	４２％	７％	２％	進んであいさつをしている。	３１％	５３％	１５％	１％	進んであいさつしている。	５％	５８％	３７％	０％
早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しく生活していますか。	３５％	４４％	１８％	３％	早寝・早起き・朝ごはんなど基本的な生活習慣を身につけている。	４３％	４２％	１３％	２％					
自分たちの住む室町地域は好きですか。	６９％	２５％	５％	１％						地域と連携し，地域の人材を活用した授業を行ったり，地域の行事に参加したりしている。	１９％	４４％	３１％	６％

教職員

地域と連携し，地域の人材を活用して授業を行ったり，地域の行事に参加したりしている。

	R3（1学期）	R3（2学期）
そう思う		
大体そう思う	41.2%	63.0%
あまりそう思わない		
そう思わない	58.8%	38.0%

コロナ禍の影響により教育活動は様々な制限を強いられ続けています。

そんな中でも，２学期以降は地域の皆様のご協力のもと，多くの教育活動に取り組むことができました。

多くの教職員も，地域と連携して取り組めたと感じています。

来年度も，制限は続くのかもしれませんが，地域の力を活かしながら，より有意義な教育活動へとつなげていきたいと思います。

保護者

室町小学校のホームページをよく閲覧している。

	R3（1学期）	R3（2学期）
よくできる		
大体できる	64.9%	44.0%
あまりできない		
できない	35.1%	56.0%

教職員

学校だよりやホームページなどで積極的に情報を発信している。

	R3（1学期）	R3（2学期）
そう思う		
大体そう思う	70.6%	39.0%
あまりそう思わない		
そう思わない	29.4%	61.0%

２回目の保護者用学校評価アンケートでは，情報発信に関する項目を少し細分化しました。その中で「室町小学校のホームページをよく閲覧している」の項目で，およそ60%の保護者の方から否定的な回答が得られました。また，教職員のアンケート結果からも，ホームページによる情報発信に対し，61%が否定的な回答となっています。１回目同様，情報発信に対し，大きな課題が見られます。積極的にホームページを活用しながら，本校の教育活動の一端を発信していきたいと思います。

＊「室町だより」は，本校ホームページにも掲載しております。ぜひ，ご覧ください。

子どもたちの今と未来のため，社会のあらゆる場で「子どもを共に育む京都市民運動」を実践しましょう！